

## 子どもの放課後の居場所の在り方

新座市東北ココフレンドコーディネーター 土屋 賢治

新座市立野火止小学校で定年退職し、その後10年半が経過しました。この間私は、引き続き新座市教育委員会のお世話になり、その生涯学習スポーツ課が進める「新座市子どもの放課後居場所づくり事業」に関わり今日に至っています。具体的には、市立東北小学校の「ココフレンド」のコーディネーターとして毎日の放課後、「子どもの見守り」の仕事を行っています。

### I 「新座市子どもの放課後居場所づくり事業」の「ココフレンド」

「ココフレンド」とは新座市の全17小学校に設置されている「放課後子ども教室」のことです。新座市教育委員会が平成24年度より行う「子どもの放課後居場所づくり事業」のもと、校舎の一部の空き教室等を利用した放課後の子どものための自主的活動の場所です。

地域の方々の御協力を得ながら、子どもたちが安全・安心に集える居場所をつくることを目的としており、その愛称を「ココフレンド」としております。「**放課後この場所<ココ>に来ると友達<フレンド>に会えるよ…**」というのがその名の由来です。活動は、拠点となるスタッフルーム（空き教室を利用）、校庭、体育館、図書室等を使用し、開催日は月曜から金曜の原則として給食のある日の放課後から午後5時まで＜冬場はお迎えがない場合4時30分＞としています。保護者の方のお迎えが必要ですが、お迎えが出来ない場合は同じ方面ごとの集団下校となります。また、夏休み等の長期休業期間中につきましては、午前8時45分から午後4時30分まで開室しています。丸一日参加の子どもは弁当持参となりますが、弁当なしで午前だけ・午後だけの参加もできます。東北小学校の場合、全校児童約800名の内350名が登録しています（約44%）。その内の約30人～50人が毎日のようにココフレンドにやってきて活動します。学校ごとに20名前後の登録スタッフがいて、その内の5～7名がシフトを組んでその日の見守りにあたっています。

### 【放課後児童クラブ（学童）との違い】

放課後の子どもを毎日見守るという点で「放課後児童クラブ」（＝学童保育、以下“学童”と記す）と外見が非常に似ていますが、違いを挙げると次のようになります。

- 管轄が新座市教育局、文部科学省であること。（学童は市長部局子ども未来部、厚生労働省）
- おやつを提供はないが、保護者負担が年間1,000円の登録料（保険料込み）のみであること。
- 利用できる時間が最長で夕方5時までであること。
- 登録は保護者や児童が希望すれば1年生から6年生まで年度ごとに自由にできること。（学童は入室に条件があり、在籍は4年生まで）
- 学校の空き教室が本部となる場（スタッフルーム・事務室）となっていること。

ココフレンドの10数年間のあゆみ

年(暦年) <平成・令和>	出来事 (*印は市全体のこと、無印は東北ココフレンド)
2011 <H23>	*新座市でココフレンド開設準備始まる <生涯学習スポーツ課による先進地区(所沢市)の視察等>
2012	*東野小・石神小のココフレンドが開設 2/17(市内全17小学校の内2校に設置)
2013 <H25>	東北小・新堀小のココフレンドが開設 4/17 コーディネーター土屋・山田が着任、スタッフは16名
2014 <H26>	*第四小・野寺小のココフレンドが開設 6/17 コーディネーター山田に代わり齋藤が着任 夏休み工作教室「風鈴」「むしかご」「かざぐるま」など
2015 <H27>	*栗原小のココフレンドが開設 7/17 春休み「音楽パーティー」・特別活動「竹とんぼ・絵手紙」「ラケットテニス」
2016 <H28>	*新開小のココフレンドが開設 8/17 料理教室<ホットケーキ・焼きそば> 「東北ココフレンドの歌」できる 夏休みの仕出し弁当の注文 ⇒ 東北小のみ「夏休みの一日開室」始まる
2017 <H29>	*大和田小のココフレンドが開設 9/17 春休み「音楽パーティー」・「料理教室」・夏休み「お楽しみ会」;かき氷 新座市教委の依頼を受けて、文部科学省主催:地域学校共働活動の事業「フォーラム in 戸田」での事例研究ワークショップの準備開始
2018 <H30>	2月;文部科学省主催「フォーラム in 戸田」事例発表(戸田第一小学校) *八石小・栄小のココフレンドが開設 11/17
2019(改元)	*西堀小・新堀小のココフレンドが開設<これ以降は民間委託> 13/17
2020 <R2>	*片山小・野火止小・池田小・陣屋小のココフレンド開設<全17校達成> *コロナ禍の中でのココフレンド⇒一時期は入室制限・スタッフは一時在宅勤務
2021 <R3>	コロナ禍の中でのココフレンドで電子紙芝居「スマホの中のココちゃん・・・トイレの鬼退治」完成 CDにコピーをして全校へ配る コーディネーター齋藤に代わり岩木が着任
2022 <R4>	*ココフレンドだよりのメール配信始まる 8月;十文字学園女子大学の食育講座を東北ココフレンドで実施、テレビ埼玉が取材し夜のニュースで放映 東北ココフレンド10周年記念誌を作製し、翌年全校に配布
2023 <R5>	*東野小・新開小とともに東北小のココフレンドも民間委託に移行(委託校9/17) *夏休み期間市内全中学校の工事に伴い、ココフレンド活動場所の変更や制限あり

## 【新座市での事業設立の経緯】

新座市としては子育てに関する支援として「新座っ子ばわーあっぷくらぶ」という事業を行っています。これは子どもたちの週末活動(第1・第3土曜日の午前中)の一層の充実と安全・安心な居場所の確保、地域の教育力の活性化を図ることを目的として平成14年度から始まり今日に至っています。また、「学童」も平成8年度には、保育に欠ける児童のために学校内や学校近隣に設置され、入室希望を積極的に受け入れてきました。学童は、現在新座市立の全17小学校に設置され、中には1つの小学校に3つ保育室がある学校もあります。新座市では、学童の待機児童を出さないために、定員を超えて受け入れているところがあり、大規模化・狭あい化が課題になっていました。このような土曜日の教育支援事業が軌道に乗り、また、学童の課題も出てきた頃、文部科学省が構想する「放課後子ども教室」が話題になりました。

新座市議会でも市民を代表する議員が何度かこの件を話題に取り上げ、関心も高まってきました。そして、土曜日の居場所だけでなく、放課後の居場所も提供しようという方向性が固まり、「放課後子ども教室」を、学童とは別に、すべての子どもを対象に地域の方々の参画を得て、学習や様々な体験・交流活動、スポーツ・文化活動等の機会を提供する取組としたのです。

新座市として平成22年度に研究組織である検討委員会が設けられ、23年度にこの事業にいち早く取り組んでいた近隣の所沢市を先進市として視察するなど、準備を進めて行きました。

左頁は当事業のこれまでの歩みを歴史年表風にしました。平成24年度、東野小・石神小の2校にココフレンドが開設され、翌年東北小・新堀小の2校に開設。以降も1年に1～2校ずつ開設されていきました。そのコーディネーターとなったのは「退職校長」でした。これについて金子廣志教育長は次のようにコメントしています。「各学校ともコーディネーターには元校長先生をお願いした。学校のことを一番知っているし、学校との調整役としても適任と考えたからだ…」最近では退職校長に限らず、教員やPTA役員経験者・町会等地域活動経験者など様々な方もコーディネーターに就き、またスタッフには地域の方々や学生等が当たっています。尚、令和元年に西堀小・新堀小にココフレンドが開設されましたが、それは新座市教委の指導助言の下、民間企業が運営を行うものでした。これ以降の新設は全て民間委託で、本年度より既設のものも民間移行が始まり、本東北ココフレンドもそれにならう形になりました。

## 【来室した子どもの動き】

来室した子ども達は、受付を済ませるとランドセルをロッカーに置き、専用の名札を付けます。また、自分の居場所を示す個々のマグネットを所定の位置に置き席に着きます。6時間目の授業が終了する(15時30分)までは学習・宿題・読書に専念します。その後、子ども達は自由行動(ドッジボールやバドミントン等のスポーツ、鬼ごっこ等の遊び、百人一首やトランプ・オセロ等のゲーム)に興じます。

もちろん自由時間ですから宿題等の学習や読書に打ち込む子どももいます。また、大人が用意した「イベント」<後述>に参加することもあります。途中、お迎えが有れば帰宅の用意をして保護者と下校します。そして下校時刻(17時)になるとすべての子どもが方面別に集団で下校します。



## 【コーディネーター・スタッフの動き】

◎コーディネーター <各校2～4名程：一日1人が勤務し運営全般を統括する>  
コーディネーターの仕事は事業の計画や準備、所管のスタッフの配置や指導助言、更に渉外など多岐にわたります。そのため、昼休み時間帯には勤務が始まります。開室までを時系列で示すと次のようになります。

13:20 学校へ到着。職員室へ寄って配布物がないか確認、先生方にあいさつ、廊下ですれ違う子ども達に「今日ココフレンド行くからねー」と声をかけられることもあります。

13:30 教室(ココフレンドルーム)の鍵開け、窓開け、換気扇・扇風機で換気します。

13:35 出勤簿に捺印し出勤簿を整理します。昼休みなどに遊びに来室する子どもに対応・電話対応<保護者等からお迎え時間の変更など>します。ココフレンド日誌に日付などを書き始めます。来月のスタッフのシフト表の準備やココフレンドたよりの作成準備をします。

13:55 今日活動のスタッフの名札を用意し、スタッフの配置場所ローテーション表を掲示します。

14:00 今日のスタッフが来室。出勤簿捺印後みんなで清掃<机・ロッカーの拭き掃除等>をします。

14:30 スタッフのはじめの会で今日の予定、注意事項を伝達、情報交換をします。

子どもが来室したらできるだけ全員の様子を見渡ししながら、時には学習を支援したり一緒に遊んだりします。また、スタッフの動きについて指導・助言を行います。子どもが下校した後はスタッフと情報交換し、特記事項を日誌に記載します。スタッフが去った後は部屋の電気や施錠の確認を行い、17時半頃職員室に声掛けをして帰宅します。

◎スタッフ <各校15～20名程：一日5～7人が勤務し、来室した子どもの見守りをする>

ココフレンドのスタッフの仕事は一言では見守りになりますが多岐に及んでいます。その詳細の提示より、どんな心構えで子ども達を相手にしていくかを書いた「心得」の方が理解されやすいのでそれを紹介します。

### ココフレンドスタッフの心得について

1. ココフレンドのスタッフは、子どもたちが集団の中で自ら学び成長する力を尊重し見守りつつ、必要に応じてルールを示し、子どもたちがお互い安全に気持ちよく過ごせるように心掛けます。
2. ココフレンドの活動の主体は子どもたちです。スタッフは子どもたちと遊ぶこともありますが、できるだけ子どもたち同士が遊びの主体になるよう配慮します。
3. スタッフはただの遊び相手ではなく、子どもたちを見守る立場なので、全ての子どもに平等に声をかけ平等に接するように気をつけます。一部の子どもだけに親しくならないようにします。
4. それぞれの子どもの状態をできるだけ把握し、自分から主張したりしてスタッフと遊びたがる子よりも、一人でいる子やスタッフに近づいて来ない子の方に注意をむけるようにします。
5. スタッフの役割で重要なのは、遊び相手よりも見守りです。子どもの遊び相手になっている時でも、周囲や子どもの状況に目を配り安全管理を怠らないようにします。
6. 子どもたちにはもちろんですがスタッフ同士もお互い挨拶して声を掛け合しましょう。普段からのこのようなコミュニケーションがいざという時に役に立ちます。
7. 子どもたちのことや設備や安全に関すること等で気づいたことがあったら、速やかにコーディネーターに報告しスタッフ全員で情報を共有しましょう。また、得た情報によっては守秘義務を徹底しましょう。
8. 基本的には、子どもたちが自分のことは自分でできるように接しましょう。ただし、危険なことやココフレンドのルールを守ることについてはきちんと教えましょう。

\*総じて、来室の子どもをよく観察し変化に気づいた時は適切な対応と情報交換が大切ということです。



## 【東北ココフレンドのイベント】

ココフレンドで大人が用意するイベントには、大きく次の種類があります。

- ① 主に長期休みなどに、スタッフが企画するイベント・・・工作教室、音楽パーティー、読み聞かせ、お楽しみ大会（綱引き、かき氷等）
- ② 主に長期休みなどに、外から講師等を招いて行うイベント・・・ラケットテニス、卓球教室、紙芝居、学生ボランティアのパフォーマンス。新座市教委が斡旋し準備してくれるものもあります。
- ③ 希望者の申込制で事前に人数を把握し費用を徴収して行うイベント・・・料理教室など。  
そのいくつかを紹介します。尚、イベントへ参加する・しないは子どもの自由意思なので強制はしません。

### ◎ものづくり・折り紙、スポーツ

スタッフの中に、折り紙・風車や竹とんぼ・手芸を得意と人が結構います。スタッフの一人が自作の見本を持って作り方の講習会が始まり、スタッフが作り方を共有したところでイベントとして行うこともあります。また、外部からボランティア団体や講師を招いてスポーツ教室や読み聞かせ、紙芝居をすることもありました。紙芝居と言えば東北ココフレンドオリジナルの電子紙芝居も作りました。

### ◎音楽パーティー

東北ココフレンドにはピアノが得意なスタッフがいて音楽室に子どもを集め歌やピアノや打楽器を使った演奏会「音楽パーティー」を行うこともありました。ゲームと絡めて行うこともあります。サクソフォンの得意な先生の飛び入り参加したこともありました。活動の中で、「東北ココフレンドの歌」が作られたりしました。

### ◎料理教室

「料理教室」は毎年2月に実施します。参加者を事前に募集し、費用を集金した上で家庭科室を借りて行います。事前にスタッフで作業手順や作り方のコツを共有し、安全や清潔第一を呼びかけながら取り組みます。焼きそば・ホットケーキ・クレープが人気です。準備や片づけに手間暇がかかって大変ですが、子ども達の嬉しそうな笑顔で癒されます。



料理教室「焼きそば」

## 【コロナ禍とココフレンド】

コロナ禍が深刻であった期間は閉室を余儀なくされたり、低学年や他に預ける手段のない家庭等、制限を設けて来室させるなどの感染拡大予防の方策が取られたりしました。スタッフは積極的にワクチン接種に臨みました。また「3密を避ける」ために料理教室をはじめとするイベントは中止又は縮小されました。コロナ禍の早期収束を祈願して千羽鶴を折ったりしました。今は一切の制限なく普通に実施されています。

## 【ココフレンドのこれから】

「放課後子ども教室」については自治体によって未だ整備が進んでいない状況で、設置されても週に一度とか月に一度の開室の場合があるようです。新座市はこれを毎日10数年続けていますが課題もあります。「学童との連携」の在り方とその実施について等です。これについては数年前から叫ばれ、各学校で試行錯誤はされながらも体系化されず行事等も確立されていません。また、ココフレンドは令和元年度から漸次民間委託を進めています。それは現在市内全17小学校中過半数の9校のココフレンドに及び、将来的には全校民間委託になるようです。これについても諸課題がありますが、しかしながら学童との同一企業による民間化の促進によって、「学童との連携や一体化」などが発展的に進められることが期待されます。

## Ⅱ 子どもの居場所の現状

新座市による定期的なアンケート結果で、ココフレンドについては概ねその目的は達成されているようです。しかし現場では毎日のように様々な課題が沸き起こります。特に子どもは、その生育歴や現在の生活環境の状況によって、かなり気にかかる様子を見せることもあります。放課後に子どもの居場所を提供する側としてはこれに適切に対処しなくてはなりません。それについて少し掘り下げて見てみたいと思います。

### 【3つの居場所】 ……「ファーストプレイス」「セカンドプレイス」「サードプレイス」

「居場所」という言葉をこれまで使ってきましたが、これは単に「実際に居る場所」というより「そこに居て居心地のいい場所」という意味を持っていると思います。

アメリカのレイ・オルデンバーグ(1932 - 2022)という社会学者が「サードプレイス」という考えを発案しました。私は恐縮ながら、同名の著作は未読でインターネット等による孫引きの情報しか知りません。それでも、「子どもの居場所」に関わる者として興味を引いたので少し調べてみました。それによりますと、生活に欠かせない家庭をファーストプレイス、職場や学校をセカンドプレイスとし、それ以外の場所をサードプレイスとしています。サードプレイスは言うなれば「3番目の心休まる居場所」ということになるのでしょう。この内、家庭は食事や入浴、更には睡眠をとるところであり、当然時間的には一番長く居るところとなり、よってそこが一番リラックスできる場所となり得ます。しかしながら、諸般の事情により家庭によってそこはあまりリラックスできない、更には不安やストレスの温床になっている場合もあります。事実、家庭崩壊・貧困やDV等で苦しい思いをしている子どもも少なくありません。2つ目のセカンドプレイスは、子どもにとっては学校になります。子どもはここで1日の1/3程の時間をかけ、遊び学び多くの知識や感情を身に着けていきます。しかし、そのような本来楽しい所であるべき学校が、いじめや人間関係・学力の問題等で不安に満ちた場所になっている場合もあります。

### 【サードプレイスの役割】

このファーストプレイスとセカンドプレイスが、本来の役割を十分に発揮されていて、健全で楽しく毎日が送られている場合でも、わずかな時間でも日常から解き放たれたい心境から設定されるのがサードプレイスとなります。イギリスのパブ、フランスのカフェがこれに当たるとよく言われます。しかし、ファーストプレイスとセカンドプレイスが、本来の役割を十分に発揮されていない場合、例えば前述した事情等により家庭で安らぎの時を過ごせない場合、或いは学校の教室の中で疎外され落ち着いた生活を送れない場合。それは今日の現実社会には少なからずあることで、そんな時こそ、サードプレイスの存在意義がとてもの大きくなるように思えます。

コロナ禍の中で「お家時間」という言葉が流行りましたが、一般的な小学生の場合、在宅時間は平日で16時間弱(NHK 調査)だそうです。一日24時間の内2/3がファーストプレイスに居ることになります。これに学校に居る8時間を加えれば、サードプレイスの時間など零になります。でも実際には工夫次第でファーストプレイスの中にサードプレイスの空間を設けたりできますし、登下校の途上等セカンドプレイスの中にサードプレイスを見出している子どももいます。要するにこれは時間や場所で明確に区切られるものではないのです。事実、ココフレンドも意図的にセカンドプレイス(学校時間)の終末にサードプレイスを設置していると言えます。

### 【5人のモデルの居場所】

私はこの仕事に携わって10年間で幾多の子ども達を見てきたことになりましたが、その内実在の5人をモデル

にしたA～Eの子どもを紹介します。それぞれ、ココフレンドに様々な理由や形で関わり活動をしていました。それを見ていく中で子どもの居場所について考えていこうと思います。

- A 君……1～4年生の頃、ほぼ毎日来室<ココフレンドに参加>。現在中学1年生。毎日のように仲間とトラブルを起こす。相手を口汚く罵り泣かせることも幾度か。これに関して保護者にも連絡が取れない。両親は居るらしいが、学校近くの叔母(事実上の保護者)の家から登下校。叔母が帰宅する夕方まで家に入れないのでココフレンドを毎日利用。小学校入学前に苗字が変更された。
- B さん……2～4年生の頃に週1回程度来室。弟が目の病気で通院する日に家が空になるために来室する。受け答えがしっかりした優秀な子でココフレンドの中では輝いていた。しかし仲間から妬まれやすいようで、5年生から教室に居辛くなった。昼休みに準備中のココフレンドルームに来てはお喋りをしたり、本棚を無言で整理したりして過ごし戻ることがひと月近く続いた。現在中学3年生。
- C 君……両親が教員の共稼ぎ家庭で4年生までは学童に在籍、5年生から毎日のように参加。本人は自宅でゲームをやりたいのに無理やり預けられていることに不満を持っている。ルール違反をしたり、大声で下品な話をしたりしてはスタッフの指導を受け、それに反発するのが日常となる。「ココフレンドなんて無ければ自由になれるのに…」等と叫ぶこともあった。それでも、年度の後半からは陸上競技(駅伝)に目覚め、以降来室がなくなった。現在高校1年生。
- D さん……1～2年生の頃、ほぼ毎日来室。母親が遠距離にあるスーパーマーケットの店長で家を夕方まで空けるため利用。お迎えが遅れがちで、日々苛立ちを募らせ、次第にスタッフに暴言を吐くなど問題行動も見られた。最近は3つ下の弟と参加するようになって、幾分改善が見られる。現在4年生。
- E 君……東北ココフレンド発足年度の新入学児だったが現在高校2年生。参加の友達と喧嘩などのトラブルがよくあり、注意を受けることが多いにもかかわらず、6年間ほぼ毎日参加。(参加数の記録は未だに破られない)卒業の後も時たま、ココフレンドのイベントがあると手伝いに来ることもある。

.....

A 君の場合はファーストプレイスで十分な安らぎを得られないであろうことは容易に想像できます。また算数の四則計算が怪しく学力不振があるようでセカンドプレイスも居心地の良い居場所にはなり得ていなかったようです。そこでA君のサードプレイスへの依存度は必然的に高くなるのでしょう。時々A君が来室してすぐに行くこととはストレス発散なのか「あア——」と大きな声を張り上げること、そして周りの子を罵倒したり喧嘩をしかけたりすることでした。スタッフは彼の事情を理解しながらも指導を入れます。毎日のようにトラブルを引き起こし指導されながらも、“最後の砦”に賭ける思いを持って彼は少しでも寛げるサードプレイスで過ごしたのでしょうか。

B さんの場合は家族である病弱な弟に対してコンプレックスを抱えていたようでした。弟が入学しココフレンドに来室するようになってから、姉として面倒を見てくれることを期待したのですが、逆にほとんど来なくなりました。教室で居づらくなったのは、運動会の選抜リレーの選手選びでもめたことが原因だと本人は語っていました。自己主張が強すぎたようです。自分で原因を作って教室にも校庭にも居場所がなくなり、昼休みのわずかな時間の過ごし場所として、ココフレンドルームをサードプレイスに選択したようでした。

C 君の場合は5年生なのだから家に帰って一人で過ごすことも選択肢になります。しかし本人もそれを望んでいるのに「それは親に言えない」というのです。親の権限が強すぎるのかもしれません。これではファーストプレイスが十分に機能できていないかも知れません。また学業不振や我儘な性格から教室というセカンドプレイスでの居心地もあまりよくないようです。そうならばサードプレイスが重要なはずなのに、ココフレンドという場を自ら拒んでしまって自暴自棄になっていたようです。しかしもし、彼の望み通りに放課後に家に帰って好きなだけ

ームに興じることができたとして、果たしてファーストプレイスが充実するとは言えるでしょうか。ゲームやスマホ依存過多など新たな課題も生じてくるかもしれません。

Dさんの場合は母親の職業が大きな影響を与えています。学校が休みの日には母親は子どもを仕事場へ連れて行き、終日店の周辺や保育室で過ごさせるそうです。その意味で彼女にとってそこがサードプレイスになり得ます。それでは母親の仕事場周辺と、ココフレンドとではどちらがより有効なサードプレイスになっているのでしょうか。1～2年生の頃は母親の姿を見られる安心感が仕事場周辺にはありました。逆にお迎えが遅れがちな母親を待ち続けるココフレンドはサードプレイスにしては不安が大きすぎます。事実彼女は、ココフレンドでは友達と遊ぼうとはせず孤立しがちで、いつも苛々した態度をとっていました。しかし、今は4年生へと成長しココフレンドに弟も加わったこともあってか明るい笑顔さえ見られるようになりました。サードプレイスに少し近づいたのかも知れません。

E君の場合は幼少期に病弱で長い入院を度々経験しました。更に、就学前は家から遠く離れた自主性の尊重をモットーとする幼稚園に通い自由奔放に過ごしました。そこで彼の小学校入学前に母親は「近所にお友達はいないし友達作りが上手いかず、自分勝手な人間にならないか・・・」と心配を募らせました。その時、友達作りができるというココフレンドの存在を知り、彼をこれに託すとともに自らもスタッフとして関わることを決心したということです。彼はココフレンドに居て上級生や同学年の多くの参加者とともに学習したり、物づくりをしたり、遊んだり、そして喧嘩もしました。その中で人との接し方を身に付けていくことができたのかも知れません。彼は10周年記念誌に「ココフレンドで大親友をゲット！」というタイトルでこんなことを書いています。『・・・4年生の時友達 S 君に将棋を教えてもらいました。S 君はとても強く・・・悔しかった僕はココフレンドのスタッフの方々と練習しました。ついに S 君に勝ちました・・・S 君は今でも大親友です。』

.....

A 君はルービックキューブが得意で一面だけですが揃えるのが速いというのが自慢でした。これによって彼はココフレンドで存在感を示すことができ居場所を確保したのかも知れません。C 君は家でゲームやスマホに好きなだけ向かえば居心地は良かったでしょう。しかし、彼はこれに溺れずに陸上競技に取組み始めました。その中で仮想空間ではなく、クラブという形で現実世界の仲間とふれあう放課後を過ごすことになりました。これも賢い選択だったと思われる。E 君はふれ合いの中で親友を得ました。セカンドプレイスの延長のような場所を自らの手で居心地の良いサードプレイスに変えていった好例と言えるでしょう。



### Ⅲ 子どもの放課後の居場所の在り方

#### 【居心地の良い居場所の用意】

前述のように人はファーストプレイス・セカンドプレイスの2つが充実していても、日常から解き放たれたい思いでサードプレイスを求めたりします。それならば、基礎であるべき2つのプレイスそのものが不安定で安心感を得られない場合はどうなるのでしょうか。上記の5人のモデルは強弱の差はありますが各プレイスでの居心地はよくなく負目を感じている子が多いようです。そういう子どもが2つのプレイスの中で「心地よさ」を求めようすると、



往々にして「異質なこと」と咎められ、益々窮地に追い込まれたりする傾向があるように思われます。そのような彼らがサードプレイスを強くそして長く求めるのは当然なのでしょう。そこで、これらのケースを救済するためには、どうしてもしっかりとサードプレイスを確保し設定することが求められます。そしてそれは大人の手で意図的に用意していきたいものです。しかしながら、ココフレンドのようなサードプレイスに集まるメンバーは様々です。2つのプレイスで満たされないものを抱えている子もいればそうでない子もいます。それ故にサードプレイスの必要度は個人差が在ります。ですからそれに対して、一律に対応ができるものとできないものがあります。意図的に用意する「イベント」も時にはあってもいいのですが、同時に個々への細かい配慮と対応も大切になります。何より「寛ぎの居場所」と「安らぎをもたらす温かい声掛け」の類が必要なのではないのでしょうか。

## 【居場所の在り方の理想】

レイ・オルデンバーグが著書の中で提唱するサードプレイスの定義によれば、そこには以下のような要素が求められています。

「中立性」 「社会的平等性の担保」 「会話が存在する」 「利便性が高い」

「常連になれる」 「目立たない」 「遊び心がある」 「感情を共有できる」

これに鑑みて、私は10余年間のココフレンドでの実践から、放課後の居場所としてどのようなことが含まれていれば理想的なのかと考へ、次の4点にまとめてみました。

### ① 安らかに過ごせること

まずは安全で安心できる場所とする。感染症予防への配慮、遊びの中で怪我やトラブルが生じない見守りの他、緊急な事態への迅速な対応ができるようマニュアル作成しスタッフに情報共有する。

### ② 親や子どもの役に立つこと

利便性という観点から「行ってよかった」と思える場所にしたい。ココフレンドの場合、保護者からは預かってもらえて宿題もしっかりできる点が好評。子どもは体育館で上級生と遊べて得した気分になると言う。

### ③ 楽しく魅力ある場であること

「よく飛ぶ紙ヒコーキが作れる」「チクチク羊毛フェルトができる」ことに魅力を感じてココフレンドに参加してくる子どももいる。「イベント」を含めて子どもに魅力を感じさせることを用意する必要がある。

### ④ みんな平等であること

ファーストプレイス・セカンドプレイスの状況が様々に違う子ども達も、このサードプレイスでは「みな同じ」が大原則であることをスタッフが共通理解する。特に問題行動が発生した時の対応には注意を払う。

このうちの④については非常に難しいものがあると思われます。例えば、もし前述のA君やC君のタイプの子が異質な行動を始めた場合、集団の秩序の維持管理の必要からも当然に指導を入れますが、一般的な対応ができない場合もあります。周囲の子はそれを見て「特別扱いだ、差別だ！」と言い出すこともあります。これに対して「区別しているだけだよ」等と短く苦しい説明して納得させることもあります。また、ココフレンドの場合はサードプレイスとは言え校舎の一部に設置されている所であるし、遊具の使用ルールをはじめ校則の範囲で動くことになり、学校から逸脱はできません。逆に学校との連絡調整や連携を必要とすることも多いので、その意味から、オルデンバーグの指摘する「中立性」を確保することは難しいと言えます。尚、それでも中立を示す意味で、子ども達には「学校からの個人情報<sup>個人情報</sup>は白紙」という姿勢で対応しています。

以上の心構えを持って、ココフレンドでは放課後の居場所づくりをより質の高いものにすべく取り組んでいます。もちろん放課後の居場所としてココフレンドは後発のもので、以前から在る学童や町会会館・コミュニティセン

ター等は放課後に大きな役割を果たしてきました。更には通学路に立つ交通指導員、町会の行事に関わる人々、庭先の花壇に水やりをする通学路の住人も子どもを見守り、駄菓子屋の店先なども子どもの居場所としてサードプレイスの役割を果たしてきました。大切なのはそれぞれの機関や人々が気軽に情報交換を行い、連携によって相乗効果を生み出すことだと思います。ちなみに、新座市の全17の各ココフレンドには「実行委員会」が置かれています。これは「学校関係者(管理職・PTA 役員)」「学童職員」「地域関係者(各町内会長)」「民生児童委員」が定期的にココフレンドの部屋に一堂に会し情報交換を行うものです。貴重なお話やご意見を聴取できる重要な会としてとても意義あるシステムと言えるのではないのでしょうか。

最後に、新座市のココフレンドのような「放課後子ども教室」が他の多くの自治体にも制度化され、近隣で緊密な情報交換がなされ、切磋琢磨しながらより質の高い「放課後の居場所づくり」が進められるようになることを期待したいと思います。

## おわりに

教育に関わる職を退いて10余年間、引き続き子どもから離れることなく、学校や子どもを俯瞰することになりました。この間、元号が平成から令和に変わり、オリンピックがあり戦争もあり、そして何よりコロナ禍がありました。特に新型コロナウイルス感染拡大防止のための文科省・教育委員会・学校そして先生方の対応を身近に観察することになりました。「オンライン授業」となり静かな教室でひとりノートパソコンに向かって授業を続ける教師の姿や、思い出を多く残せるはずの「修学旅行」や「運動会」を断念せざるを得ない教師と子どもの痛恨の表情を垣間見た時、傍観者ながらも胸を痛めました。

また、この期間でスマートフォンが特に中学生にも拡大していったことは見逃せません。学校への持ち込みは禁止されているようですが、近所の学習塾ではほぼ全生徒が持参し暇さえあれば見ているということです。ゲームに興じたり YouTube を眺めたりして、中には一日3時間以上スマートフォンに向かっている中学生もいるようで、「依存症」が心と体を蝕み感染症のように広まっています。更には、これからは「生成 AI」が社会の様々な場面で取り入れられることになりそうですが、学校もこの変化にどのように対応していくのかに関心が高まり目を離せません。

こうした社会環境の変化に伴う学校や子どもの現況を「仕方ないか…」とか「自分たちは<いい時代>に生きたからいいや…」等と看過できず憂いを覚え続けてきました。私事で恐縮ですが、ちょうどこの10余年の時期に孫3人に恵まれ、仕事の傍らでその成長を見守ってきました。そのためなのか「爺の眼(じいのみまこ)」でもこの間のことを観てきたようです。自分が命を終えても、子や孫たちが生きる時代の日本は、学校は、教育はどうなるのか…、少なからず気になるところです。現況には自分達がしてきたことに遠因がないとは言えませんが、微力ながらも最善の策に想いを馳せて行こうと思います。それも、このような仕事に関わらせて頂いた賜物であると言えるでしょう。ですから今更ながら関係各位に深く感謝申し上げます。 [終]

## 新座市立東北小学校校庭より ⇒

校舎1階奥が東北ココフレンドスタッフルームとして使用している空き教室。その奥は体育館

